

# 日進市男女平等に関する市民意識調査報告書

## <ダイジェスト版>



### 調査の目的

日進市では、家庭・地域・職場など、あらゆる分野で女性も男性も自分の意思で参画し、共に支え合い、認め合い、喜びも責任も分かち合える男女平等な社会を実現するための取り組みを進めています。

本調査は、市民の男女平等意識の現状を調査し、第2次日進市男女平等推進プラン（平成23～32年度）見直しのための基礎資料を得ることで、今後の施策に反映させることを目的として実施しました。

### 調査対象

市内在住の20歳以上の男女各1,250名（合計2,500名、住民基本台帳による無作為抽出）

### 調査期間

平成26年7月～8月（郵送配布、郵送回収）

### 回収状況

1,090通（回収率43.6%）

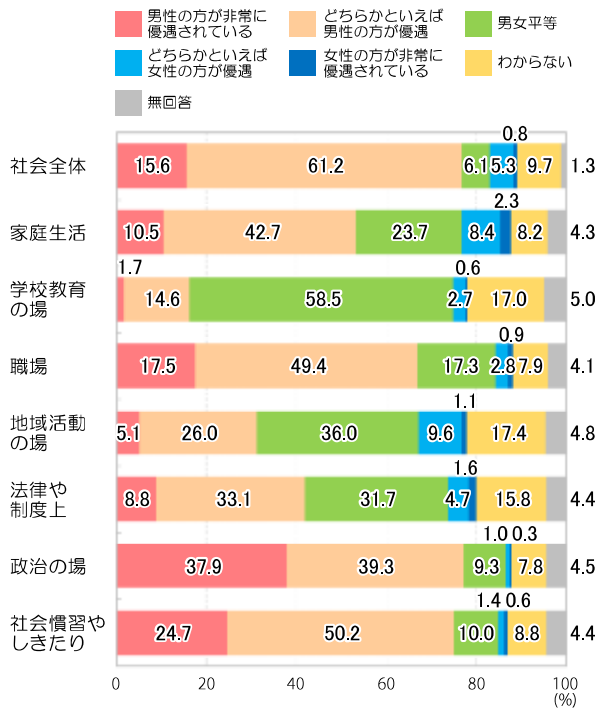
※集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

## 社会における男女の平等感について

「政治の場」「社会慣習やしきたり」「職場」で男性優遇の意識が強い

- 社会全体でみる男女の地位については、男性の方が優遇されている\*と感じている人が7割以上となっています。
- 社会の各分野別にみると、「学校教育の場」では平等と感じている人が5割を超えていますが、「職場」「政治の場」「社会慣習やしきたり」では、男性の方が優遇されている\*と感じている人が6割以上となっており、不平等感が特に強くなっています。

\* 男性の方が優遇されている：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計



## 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

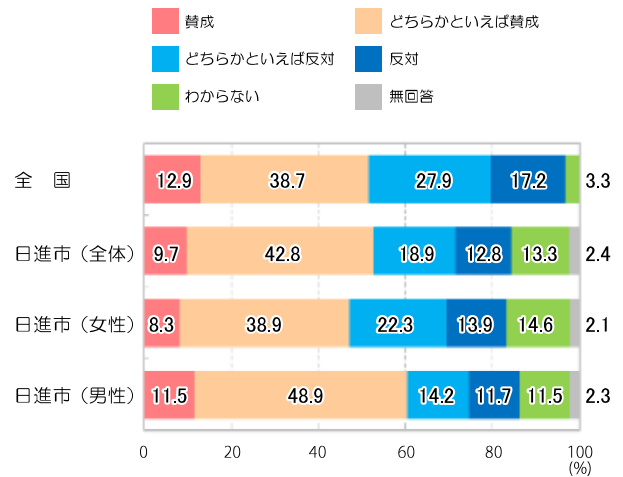
全国に比べて全体的に顕著な差はない

- 日進市では、この考え方に賛成している人\*1が5割を超えているのに対し、反対している人\*2は約3割となっています。
- 一方、全国調査\*3では、この考え方に反対している人\*2が4割以上で日進市よりも多いものの、賛成している人\*1の割合は日進市とほぼ同じとなっており、全体的に顕著な差はみられません。
- この考え方に賛成している人\*1は、女性では5割以下ですが、男性では約6割となっており、固定的な性別役割分担意識が、男性を中心に根強く残っています。

\*1 賛成している人：「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計

\*2 反対している人：「反対」「どちらかといえば反対」の合計

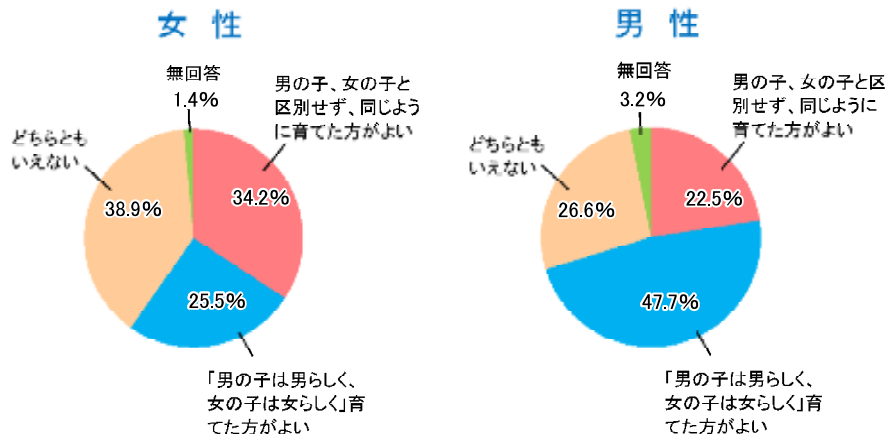
\*3 全国調査：男女共同参画社会に関する世論調査（平成24年度）



## 子どもの育て方について

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という意識は男性に強い

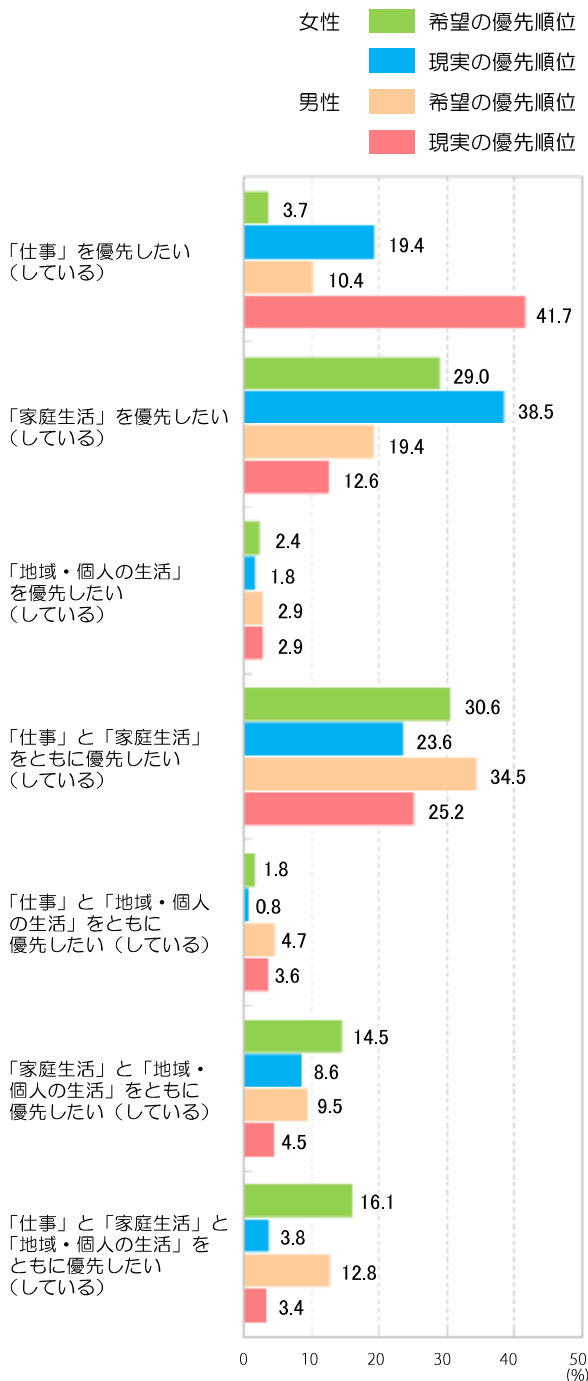
- 女性では、「どちらともいえない」という人が約4割と、男性に比べ1割以上高くなっており、判断が難しいと感じている人が多いと推測されます。
- 男性では、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」と考える人が約5割で、女性に比べ2割以上高くなっています。



## ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)\*について

「仕事を優先」では、希望と現実で大きな差が生じている

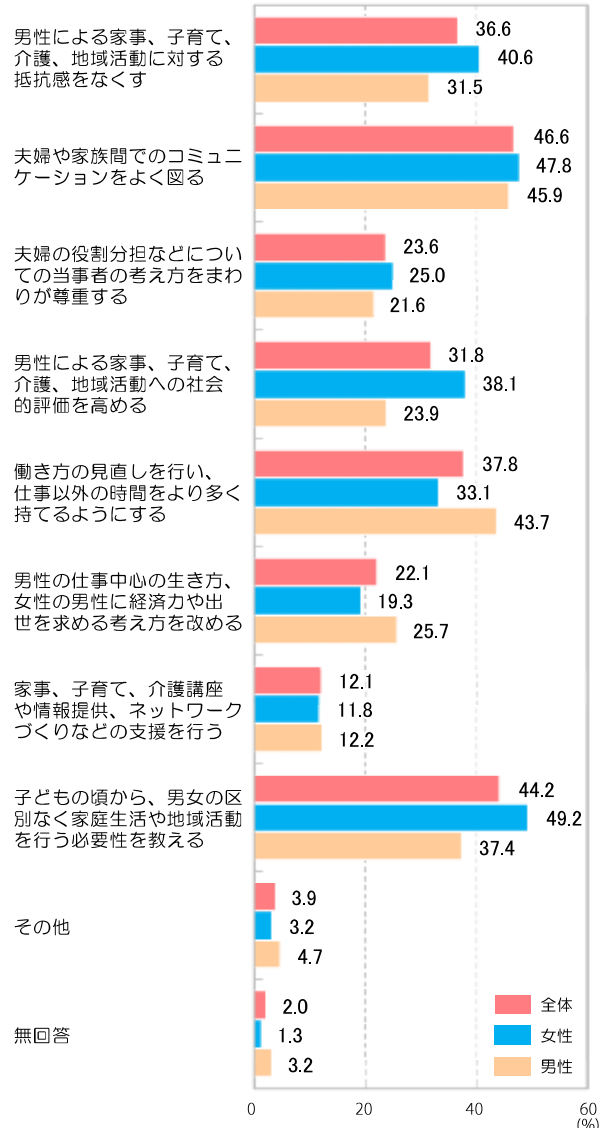
- 生活の中における希望の優先順位では、女性、男性ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が約3割と、最も多くなっています。
- しかし、現実の優先順位では、女性で『「家庭生活」を優先している』が約4割、男性で、『「仕事」を優先している』が4割以上となっており、特に男性でワーク・ライフ・バランスを取るのが難しい現状が見て取れます。



## 男性の家事、子育て、介護、 地域活動への参加の推進について

「夫婦や家族間でコミュニケーションを図る」が全体の約5割と最も多い

- 女性では、「男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める」「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」という意見が男性に比べ特に多くなっており、子どもや男性への意識啓発の必要性を感じていることがうかがえます。
- 一方、男性では、女性に比べ「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」という意見が多くなっています。

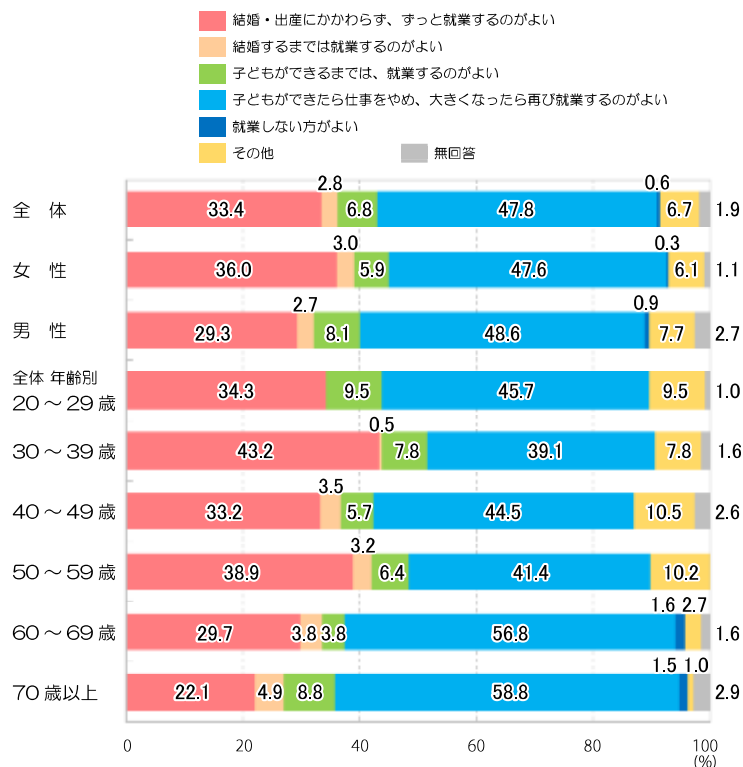


\*ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活が送れる状態のことをいいます。

## 女性の就業について

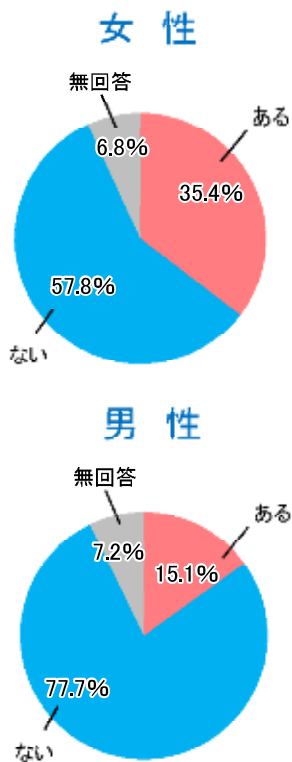
「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と考える人が半数近くを占めている

- 全体でみると、女性が就業することについて、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と考える人が約5割、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が約3割となっています。
- 年代別でみると、20代～50代では「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」と考える人が3割を超えており、60代、70代以上では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と考える人が5割を超えています。



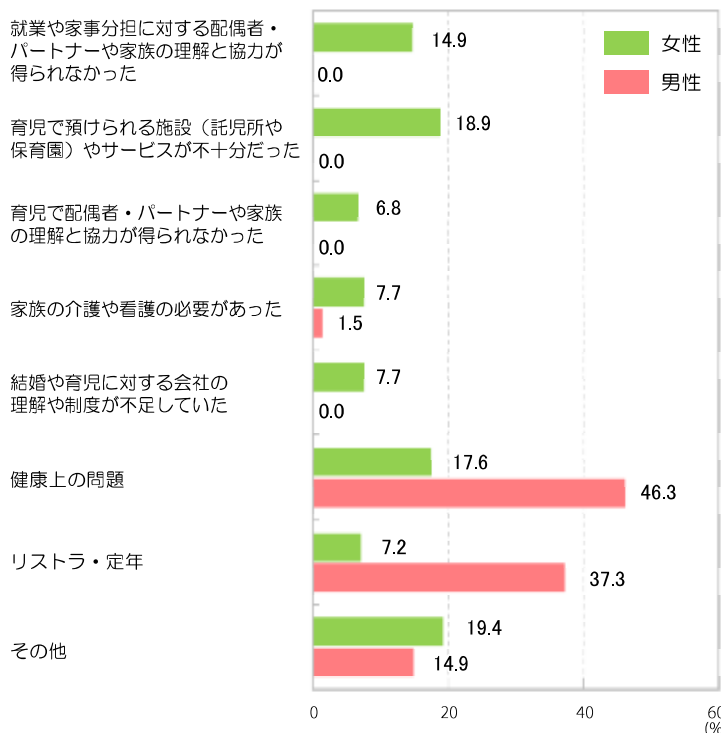
## 働き続けたいけれど、働くことができなかった経験

- 女性では3割以上の人、男性では1割以上の人「働き続けたい」という就労希望がかなわなかったという結果となっています。



## 働き続けることが出来なかった理由

- 女性では、「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」「健康上の問題」など多岐にわたっており、仕事を続けるうえで、様々な問題に直面していることがわかります。
- 男性では、「健康上の問題」「リストラ・定年」が主な理由となっています。



# ドメスティック・バイオレンス (DV)\*を受けた経験 〈抜粋〉

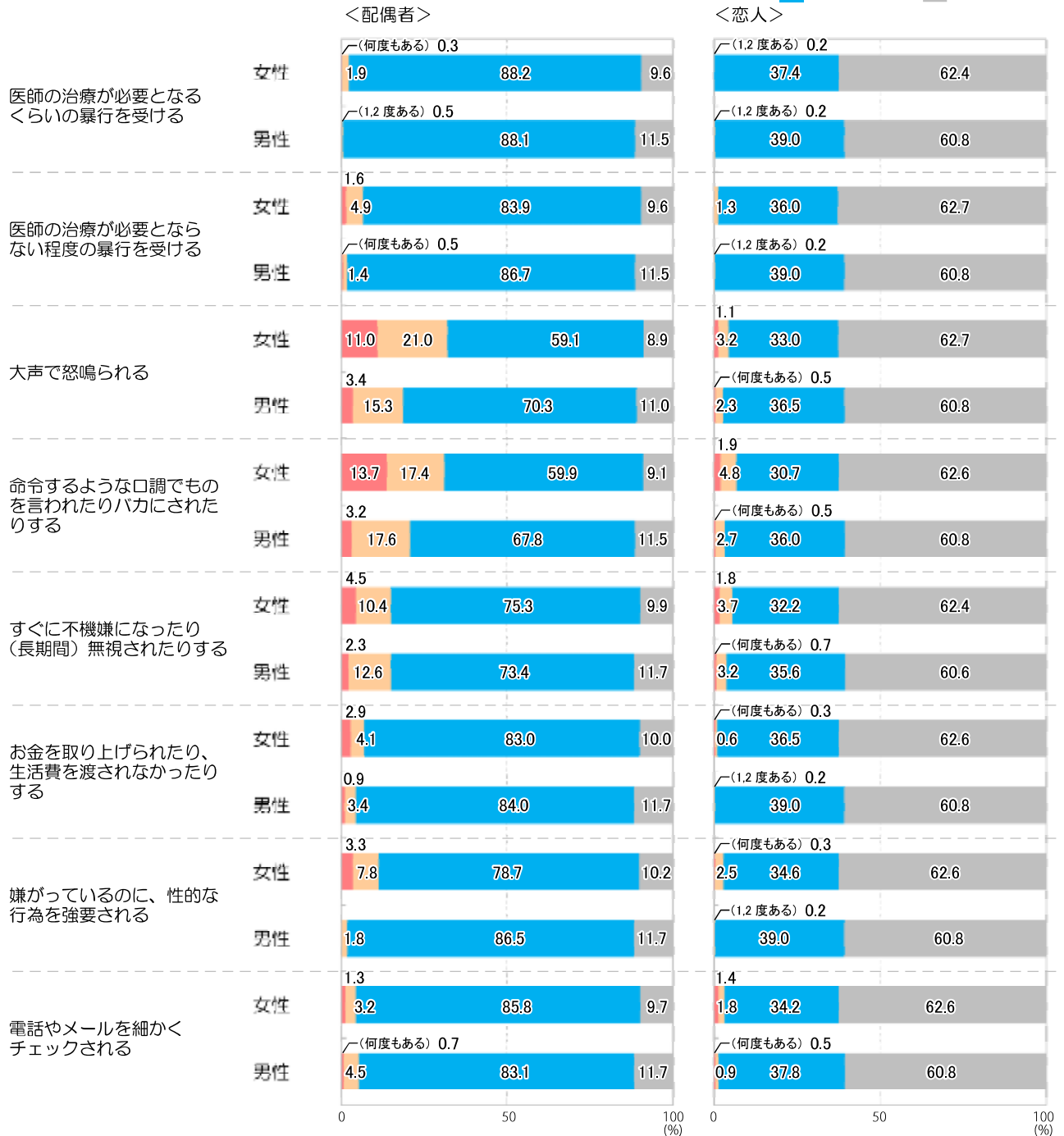
## 配偶者や恋人からの暴力が身近で起きています

- 配偶者や恋人から暴力を受けた経験では、配偶者に「大声で怒鳴られる」「命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする」で、男性では約2割、女性では約3割もの方が経験がある\*と答えています。
- 特に女性では、「電話やメールを細かくチェックされる」以外の全項目について、男性よりもその経験がある\*割合が多くなっており、多くの女性がDVの被害を受けています。



\* 経験がある：「何度もある」と「1、2度ある」の合計

何度もある 1、2度ある  
全くない 無回答

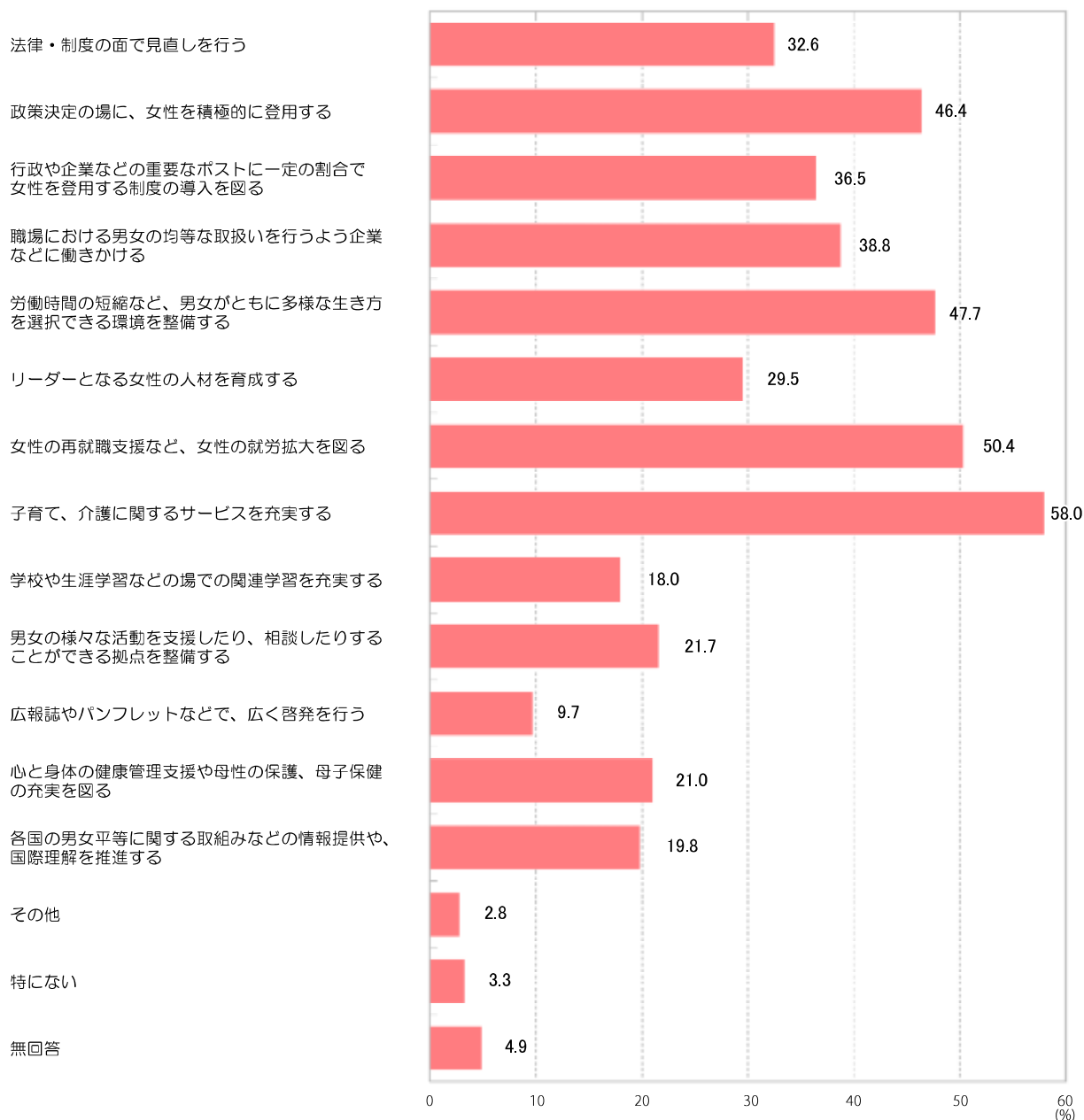


\*ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、パートナーなどの親密な関係にある者の間で起こる暴力のことで、女性に対する暴力、または夫・恋人からの暴力と訳されます。結婚などで生活を共有し、制度上や社会的慣習でもカップルとみなされている関係のなかで起こる暴力といわれています。

# 男女平等な社会を推進していくために、今後行政が力を入れていくべきこと

## 子育て、介護に関するサービスへの要望が高い

- 今後行政が力を入れるべき施策については、「子育て、介護に関するサービスを充実する」が最も高く、6割を占めています。
- また、「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」「女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る」についても約5割と要望が高くなっています。女性の能力を活用するとともに、働き方の見直しを進め、男女ともに、ワーク・ライフ・バランスが取れるような環境づくりを進めていく必要があります。



ご意見・ご感想をお寄せください。

日進市男女平等に関する市民意識調査報告書<ダイジェスト版>  
発行：平成27年3月

日進市 市民協働課 男女平等推進係

〒470-0192 愛知県日進市蟹甲町池下 268 番地 / TEL 0561-73-3194 FAX 0561-72-4603

E-mail kyoudou@city.nisshin.lg.jp